

豊川小だより

4月号

ホームページ
QRコード



令和8年 4月6日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

「優言実行」

(「AERA」今週の1行コピー より)

校長 中村 順子

校門の満開の桜の下、豊川小学校151年目の歩みとなる新たな年が始まりました。
令和8年度も豊川小学校と、マスコットキャラクター「さくらす」を、どうぞよろしくお願い
いたします。



＊

少し前までのことになりますが、電車内の「AERA」という雑誌の中吊り広告にあった「今週の1行コピー」が、毎週月曜日の通勤時の密かな楽しみでした。デジタル化が進んだ現在では、車内広告に触れる機会はめっきり減りましたが、その「AERA」を、昨年末にたまたま手に取る機会がありました。その号の「今週の1行コピー」は「優言実行」。雑誌をめくっているうちに目に留まったのは、ある音楽プロデューサーへのインタビューでした。

そのプロデューサーは、自らもダンスボーカルグループで活躍後、音楽プロデューサーとして、若者に人気のグループを次々に世に送り出し、国内外で高い支持を集めていた人です。そのインタビュー記事で彼が語っていたのは、自らの音楽プロダクションで新人を育成する際の心構えについてでした。

「ダンス&ボーカルグループにおいて、カッコいいこと」はダンスやラップが上手であることが上位に来ることとはもちろんなのですが、「やさしくあること」も上位にきています。しかもそれが「怒られるからやさしくしなきゃいけない」「やさしくなければデビューできない」といった認識から生まれるのではなく、シンプルに「やさしいことがカッコいい」という意識から生まれています。

たとえば、誰かがめっちゃくちゃカッコいいダンスや歌をキメたとき、みんな「おー！」と歓声を上げて「カッコいい」と思うわけです。同じように、誰かがとてもやさしい行動を取った時にも、そんな雰囲気になる。「かっこよくあろう」という行為の中にやさしさが入っているのはとても良いことだと思っています。

そしてやさしさは連鎖します。まずは自分から発信を始めてみよう、という気持ちが大事。先輩にやさしく接してもらった後輩は、「今度は僕たちが下の世代にやさしくありたい」と思うようになるのです。

(AERA 令和7年12月15日号より抜粋 傍点部は中村加筆)

＊

豊川小学校には、下の学年に対して本当に優しい子がたくさんいます。それは、「先生に褒められたいから」また「低学年をいじめちゃいけないから」といった短絡的な理由ではありません。フレンズ班での異学年交流、隣接する教室同士での学年を超えた日々の交流、そして昨年度行われた創立150周年記念式典や学習発表会などでの高学年の活躍。そのいずれもが、ともに活動する相手を思って真摯に取り組んだ結果であり、それが下学年にとっても大きな刺激となって、5、6年生の姿をお手本として成長してきました。毎日の学校生活の中で自然に優しさの好循環が生まれ、5、6年生にとっても「自分たちの姿が見られている」という実感が励みになっており、まさに「優しくありたい」と考えているのだと思われます。

このような好循環が本校のあちこちで育まれてきていることを、心からうれしく思います。今年度で3年目を迎える校内研究テーマ「非認知能力の育成」も、その力を支えるものになっていると、改めて強く感じています。

＊

新たな年も、子供たち一人一人が自らの意思で高みを目指し、優しさの好循環を大きく育てていくことができるように、教職員一同、児童への支援に努めてまいります。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。